石屋工務店かわら版
第172号
平成29年10月23日発行

石屋工務店
Tel シックニ イシヤサン
075 492-1483
http://www.kyoto-deseo.co.jp/
〒603-8474 京都市北区大宮薬師山東町47-5
建設業/京都府知事(般-25)第31625号 インテリアコーディネーター登録店

粋人 石屋の多趣味人生 その147

東京遊山

前回は母との東京観光でしたが、今回は初日のお話。東京に来ると路線名はさっぱり。後に、友人が「無事か?」と心配してくれましたが何が何だか全然分かっていません。今回は、上野恩賜公園で海底の「深海」展と野菜・花々で顔を表現する「アルチンボルト展」に。あと上野大仏様にも。「深海」の展示に向かって歩けば、転んでしまうし。チケット買うときには何枚?と聞かれて「一人」と答えたら、「わかりません」と言われるし。東京と京都のギャップは大きいのかと感じた私。東京駅界隈ではKITTEに行き、一号店の郵便局で振り込んでみる等色々楽しんでみました。本当に東京は大きいですねえ。なので移動するのが大変。なかなか前に進みません。近距離で断られそうでタクシーに頼むのもドキドキ。なんか…こんな感じで終わる東京って…東京は難しいのかな?でもまた今度出掛けた時は、違う処に行ってみよう。

石坂 千孝

夏目漱石(なつめそうせき)

一番長く続いている趣味の一つが読書です。字をちゃんと読めるようになったのが保育所の頃ですから、それ以来ずっと続けている事になります。小学の低学年時代は伝記が好きでいろんな人の伝記を片っ端から読んだ記憶が有ります。子供心に偉い人になる為にはどうしたら良いかと考えていたのですが、この時点で挫折してしまいました。それからSF、推理小説と進み、文学作品に出合ったのが「夏目漱石」でした。最初は中学1年の時の国語の教科書に載っていた「坊ちゃん」でした。最初の部分だけだったのですが、「親譲りの無鉄砲で子供の頃から損ばかりしている」と言う出だしがとてもリズムよく全文を読んでみたくなり、図書館で借りて読んだのが出会いでした。当時は文学作品と言う感覚より、コミカルな内容だなと思っただけでした。これに味を占め次に「吾輩は猫である」を読む事にしました。こちらも出だしの「吾輩は猫である。名前はまだ無い。どこで生れたかとんと見当がつかぬ。」が有名で内容も面白く、中学生の私でも気軽に読めました。明治時代の文学作品ですがテンポよく、現在でも読みやすいのが今でも愛されるところでは無いかと思います。これで調子に乗って漱石を読み始める事となります。次に「草枕」。「智(ち)に働けば角(かど)が立つ。情に棹(さお)させば流される。意地を通せば窮屈だ。とかくに人の世は住みにくい。」の冒頭の部分が非常に印象に残りました。後でいろんな解説を読んだのですが、明治後期の日本人の人生観、世界観が凝縮された一文であり。欧米の神を中心とした世界では無く、一個人が集まりこの世は作られているんだと言う観念が、日本人の底辺に有るんだと言う事を集約した物だと言う事知りました。漱石は明治を代表する哲学者でもあった訳です。それ以来「虞美人草」「行人」「こころ」「三四郎」「それから」「二百十日」「野分」「彼岸過迄」「抗夫」「門」「明暗」など読み進める事となりますが、これは全て中学生時代に読んでしまいました。ただ、中学生の子供が深いところまで理解できるはずも無く。ただ単に字面を眺めただけに終わっただけですね。

この歳になり読み返せば、もっと深い所を感じられるのではないかと思う今日この頃です。

石屋 紀次

色々要注意

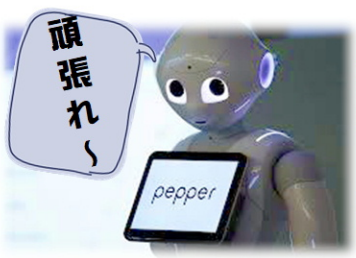
レジで抽選券をもらって、くじ引きでセッケンをもらって帰ろうとするとインターネットの営業の窓口に連れて行かれました。

風船をくれるというのでついていったら携帯電話の乗り換えの窓口に連れて行かれました。うかつに物をもらってはいけないと思いました。

携帯売り場にいるロボットが子供に蹴られていました。それを見ていた親が一緒にロボットの頭を叩き出しました。そのあとにきたおじいちゃんであろう方に親と子供がしかられていました。

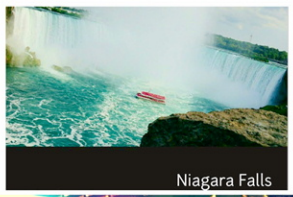
最近行ったイオンの中で四條畷イオンのフードコートが1番良いと思いました。

公園でリフティングがとても上手な子がいて、負けたくないので頑張ったのですが2分で足が上がらなくなりました。悲しかったです。



高野 圭亮

アナザースカイinトロント編



先月の瓦版に続き、今回はトロント編。

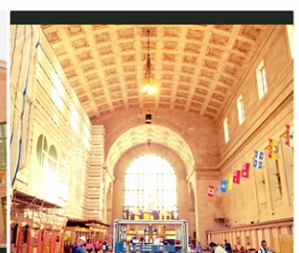
トロントには、日系カナダ人である曾祖父の姪が住んでおり、まだお会いしたことがなかったので、今回のカナダ行きをきっかけに初対面することになりました。彼女の父は、曾祖父の弟であり、曾祖父と同じくバンクーバーで活躍した野球チームの選手です。三兄弟揃って活躍していました。この対面が歴史的な出来事となり、バンクーバーに続いて、トロントでも取材を受けることになりました。トロント滞在中は彼女の家に泊まりました。家族みんな温かくて親切で、また一つ家族が増えたことが嬉しかったですし、久々にホームステイをした気分で新鮮でした。トロントといえば、アメリカとの国境にあるナイアガラの滝。吸い込まれるような迫力で、また一つ夢の地へ来ることができたことに感動。カナダ側からみたニューヨークにも興奮しました。

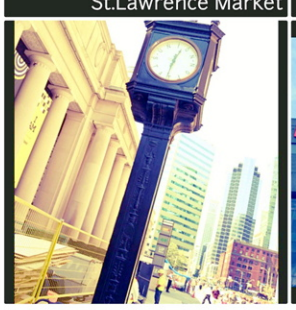
トロントの野球といえば、メジャーリーグのブルージェイズ。青木選手が移籍してきたこともあり、ロジャーズセンターというスタジアムに行くと、熱気がすごくて大興奮しました。

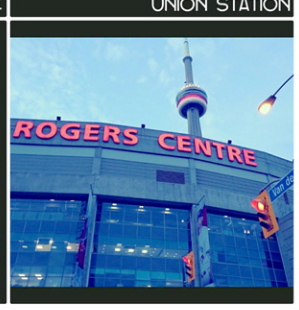
ダブルデッカーバスという二階建てバスでトロント市内を観光しました。トロントはバンクーバーとはまた少し違い、街並みも美しく、レンガ造りの建物が多かったです。高所得者層の方が多いことも影響しているのか、品のある街でした。夜景も期待を裏切らない、高層ビルやネオンの明かりで都会的でした。

一人旅も、数日たつと心細く、寂しくなります。カサロマ城という所に行った時、ふと関西弁が聞こえてきて、思わず「大阪の方ですか?」と声をかけました。日本語を喋ったのは久々。すると「分かったか?」(笑)と。同じ日本人、同じ関西人、すごく嬉しくて、今回の旅のことを話すと「気をつけて頑張りや」と言ってくれました。一瞬の出会いでしたが楽しかったです。

St.Lawrence Market


UNION STATION





次回は、北極圏イエローナイフについて書きます。

中島 あゆ美